

# 臨濟宗大徳寺派 海門山 満月寺 浮御堂



山門(樓門) (登録文化財)

びわ湖 浮御堂 (登録文化財)



## 浮御堂

JR京都駅より26分・JR湖西線堅田駅下車・  
町内循環バス出町下車 徒歩5分

〒520-0242

大津市本堅田1丁目16番18号

電話堅田 (077)572-0455

FAX (077)574-1199

## 浮御堂の歴史

近江八景の一つ堅田の落雁として有名な堅田の浮御堂は、びわ湖の最狭部に位置し、海門山満月寺と称する禅寺で京都紫野大徳寺に属する。昔一条天皇の長徳年間(西暦九九五年頃)比叡山横川恵心院に住した源信(恵心)僧都が、びわ湖を山上より眺め湖中に一字を建立して自ら一千体の阿弥陀仏を刻んで「千仏閣」「千体仏堂」と称し湖上通船の安全と衆生済度を発願したに始まる。因みに僧都は、我が国の宗教思想に大きな影響を与え、浄土教学の基礎を樹立した「往生要集」の著者である。真宗伝灯第六祖と仰がれている。

堅田の地は、その後、建武の始めより元亀天正に至る間に、度々戦場となり、当寺も漸次荒廢に帰したが、徳川時代になり、大徳寺の住持、湘南宗沅、大岫宗般、等によって復興された。江戸時代より昭和九年迄の浮御堂は桜町天皇より御能舞台の御下賜を仰いで建立したものである。観音堂の聖観音座像は、重要文化財であり平安時代、約九百年前の尊像である。現在の浮御堂は、昭和十二年の再建で「阿弥陀仏一千体」を安置して「千体仏」と称している。「多数功德作善信仰」という平安時代の信仰、一体よりも二体、三体と数多く仏像を作る事に、功德ありと考えた様子を今日に伝えている。

浮御堂は湖中に突出している為、次頁裏の版画の如く東に伊吹山、長命寺山、近江富士(三上山)、沖の島、西に比良連峰、比叡山等、眼前に湖水を一眺出来る。風景絶佳の地点で風花雪月それぞれの趣があり、境内の老松も閑寂な寺域にふさわしい。古くより堅田は京都に近く湖上交通の要地で、一休和尚、蓮如上人が錫をとどめ、芭蕉、一茶、広重、北斎等が杖をひいて多くの詩歌、絵画を残している。

## 浮御堂境内の句碑

比良三上 雪さしわたせ 鷺の橋  
芭蕉  
病雁も 残らで春の 渚かな  
蘭 更

湖も この辺にして 鳥渡る  
虚子

五月雨の 雨だればかり 浮御堂  
青 畝

## 近江八景

- 北より比良の暮雪
- 堅田の落雁
- 唐崎の夜雨
- 三井の晚鐘
- 栗津の晴嵐
- 瀬田の夕照
- 石山の秋月
- 矢橋の帰帆

## 聖観音座像(国重要文化財)

観音堂(登録文化財)

薬師如来像・十二面観音像が安置されている。



## 茶室玉鈎亭(登録文化財)

浮御堂の古材に於て建立されたものである。昭和九年までの浮御堂は京都御所桜町天皇の御能舞台の御下賜を仰いで建立されていた。



## 芭蕉の句碑

元禄四年の仲秋名月の翌日、十六夜にお月見の宴をされ、詠まれた句

鎖あけて  
月さし入れよ

浮御堂

